SHIMADZU
Excellence in Science

2027年3月期

中間期決算説明会

株式会社島津製作所

東証プライム市場：証券コード7701

代表取締役社長 CEO 山本靖則

2026年11月10日

※本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

皆さま、こんにちは。島津製作所社長の山本でございます。日頃より大変お世話になり、誠にありがとうございます。
それでは、2027年3月期中間期の決算についてご説明いたします。

ハイライト

中間期業績

全セグメント増収増益

売上高・営業利益とも前年実績および1Q時想定を上回って成長

【売上高】 2,820億円 (前年同期比+10%)
【営業利益】 374億円 (前年同期比+18%)
【営業利益率】 13.2% (前年同期比+0.9pt)

2Q(7-9月)業績

計測・産業 増益 営業利益率改善

計測：新製品とリカーリング売上高の増加が寄与し増益。利益率も改善

【営業利益/利益率】 168億円 (+12%) / 17.3% (1Q 9.6%)

産業：半導体関連事業が牽引し1Qに続き大幅増収増益。利益率も伸長

【営業利益/利益率】 46億円 (+133%) / 19.3% (1Q 18.4%)

通期目標

上方修正

新製品拡販と半導体市況を織り込み、過去最高を計画

【売上高】 6,300億円 (前年度比+12% 8月公表から+100億円)
【営業利益】 840億円 (前年度比+14% 8月公表から +40億円)
【一株当たり配当】 72円 (前年度比 +3円 5月公表から +2円)

SHIMADZU Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

まず、ハイライトです。

中間期の業績は、4つの事業セグメントすべてで増収増益となりました。

第2四半期（7-9月）だけを見ますと、特に計測機器と産業機器の増益が大きく、営業利益率が大幅に改善しました。

通期目標につきましても上方修正いたします。売上高は6,300億円、営業利益は840億円とし、8月公表比でそれぞれ100億円、40億円引き上げました。

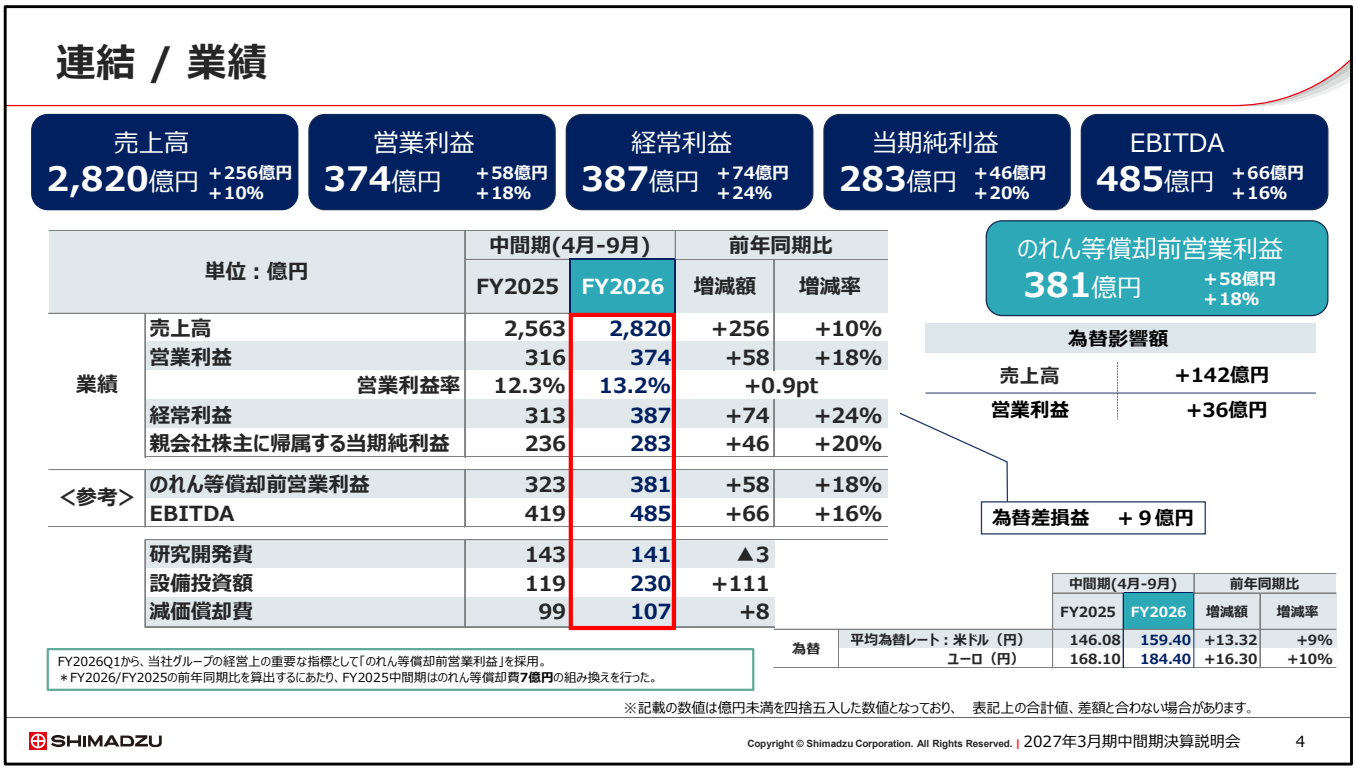
また、1株当たり配当も、前年度比で3円、5月公表比で2円の増配を予定しております。

決算概要

- 連結
- セグメント別

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

それでは、決算概要として、連結業績およびセグメント別業績をご説明いたします。



連結業績です。

売上高は2,820億円となり、前年同期比256億円、10%の増収となりました。営業利益は374億円で、58億円、18%の増益です。

経常利益は387億円で、74億円、24%の増益となりました。為替差損益が前年同期より9億円ほど改善したことにより営業外損益がプラスとなり、経常利益が営業利益を上回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益の増加もあり283億円、46億円、20%の増益となりました。

また、今中期経営計画から開示しておりますEBITDAは485億円で、66億円、16%の増加、のれん等償却前営業利益は381億円で、58億円、18%の増加となりました。なお、買収したTescan社の業績は上半期にはまだ連結されていないため、営業利益とのれん等償却前営業利益の前年同期比はほぼ同水準となっております。

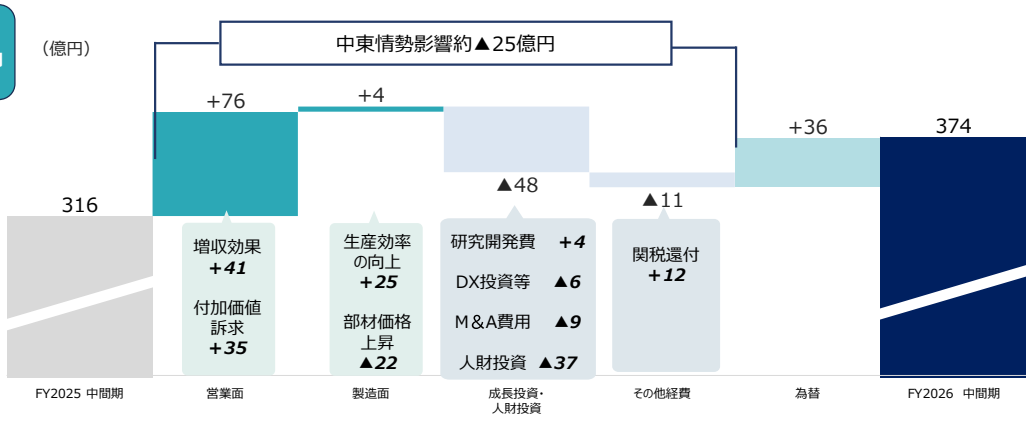
研究開発費は141億円で、前年同期から3億円減少しました。これは、全社部門の費用発生の一部が上半期から下半期にずれたことによるものです。

設備投資額は111億円増の230億円、減価償却費は8億円増の107億円となりました。

連結 / 営業利益増減要因

営業益：＋76億円	中東影響を受け一部地域で苦戦したが、半導体関連事業の牽引と付加価値訴求で増益
製造益：＋4億円	部材価格上昇を生産効率の向上とコストダウンでカバーし、全体で増益
成長投資増：48億円	DX投資、M&A関連費用
経費他増：11億円	業務委託、旅費交通費など

営業利益
374億円 ＋58億円 ＋18%



※記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、 表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

SHIMADZU
Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

営業利益の増減要因をご説明いたします。

最も大きく寄与したのは、増収効果と付加価値訴求による営業面の増益です。新製品の投入によりこれまで以上の価値を認めていただいたこと、また人件費や部材などのコスト増に対して価格改定をお願いしたことにより、営業面で合計76億円のプラスとなりました。

製造面では、半導体関連事業が大きく伸びたことで生産効率が向上し、部材価格の上昇を吸収して、製造益は合計4億円のプラスとなりました。

一方、DX投資やM&A関連費用などの成長投資が48億円増加し、業務委託費や旅費交通費などの経費も11億円増加しました。

その結果、営業利益は374億円、前年同期比58億円、18%の増益となりました。

連結 / 地域別売上高

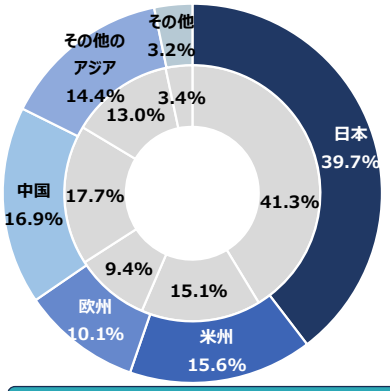
主要地域すべて **増収**

海外比率 **60.3%** +1.6pt

- 日本 ： 半導体向けターボ分子ポンプ（TMP）と航空（防衛関連）がけん引
- アジア ： 特に台湾・韓国で、半導体向けTMPが大きく増加
- 米州、中国 ： TMPに加えて質量分析システムや液体クロマトグラフが増加
- 欧州 ： 質量分析システムが増加

単位 億円	売上高 FY2025 中間期	売上高 FY2026 中間期	前期比 増減額	前期比 増減率	構成比 FY2025 中間期	構成比 FY2026 中間期	前期比 増減
日本	1,058	1,118	+60	+6%	41.3%	39.7%	▲1.6pt
海外	1,505	1,701	+196	+13%	58.7%	60.3%	+1.6pt
米州	388	441	+53	+14%	15.1%	15.6%	+0.5pt
欧州	242	286	+44	+18%	9.4%	10.1%	+0.7pt
中国	453	476	+23	+5%	17.7%	16.9%	▲0.8pt
その他のアジア	334	406	+72	+22%	13.0%	14.4%	+1.4pt
その他	86	91	+5	+6%	3.4%	3.2%	▲0.1pt

外側：FY2026実績　内側：FY2025実績



海外事業のバランスが良くなっている

＊本頁記載の数値のみ、決算短信に合わせ億円未満を切り捨て
＊その他のアジア：インド、東南アジア、韓国、台湾

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

地域別の売上高です。

日本、米州、欧州、中国、その他のアジアの主要地域すべてで増収となりました。海外の伸びにより、海外売上高比率は60.3%と、連結で初めて60%を超えました。計測機器ではこれまでも海外売上高比率が60%を超えていましたが、連結では60%に届いていませんでした。特に、米州、欧州、その他のアジアで、半導体関連を含めて大きく伸びたことが寄与しています。

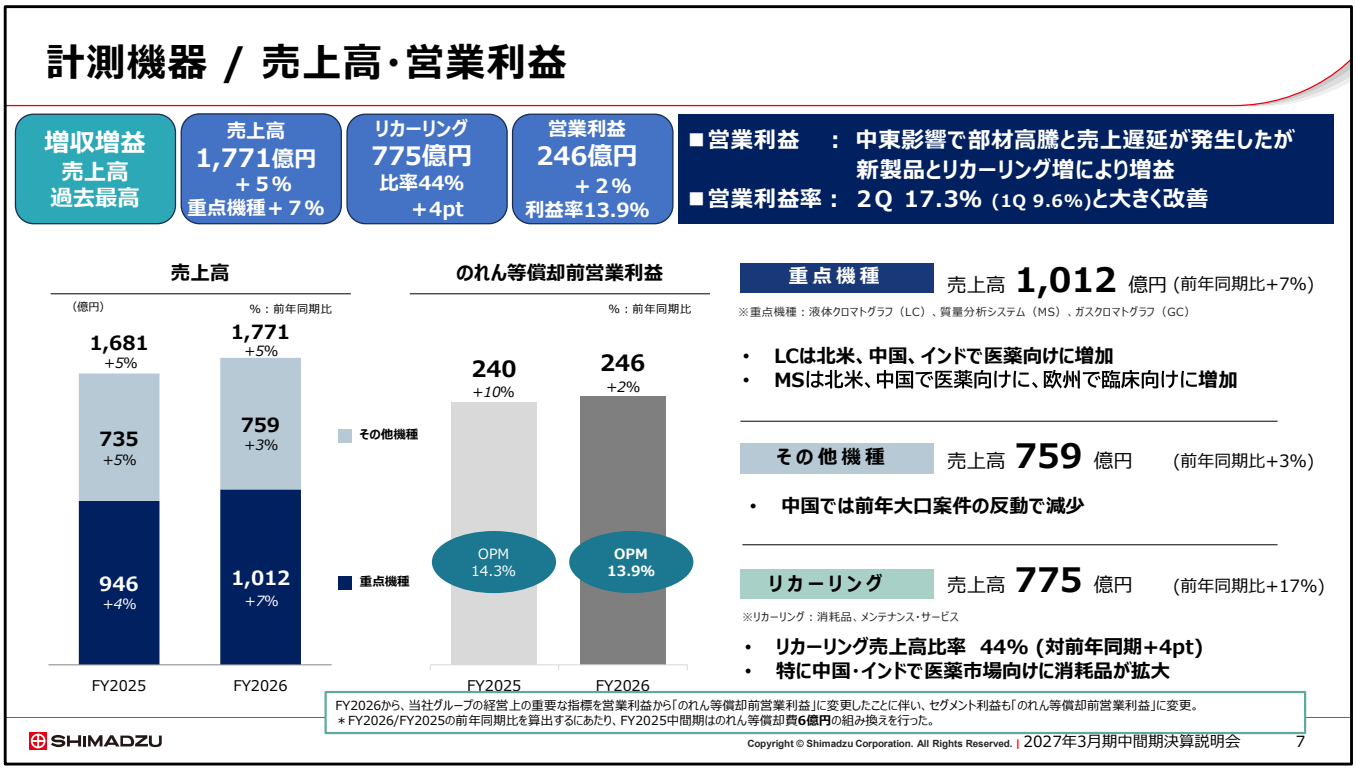
日本は、半導体向けのターボ分子ポンプ（TMP）と航空機器が牽引しました。加えて期の後半には、計測機器で医薬業界や半導体向けの化学業界の需要も動き出し、全体でプラスとなりました。

アジアでは、特に台湾・韓国で半導体向けTMPが大きく増加しました。

米州と中国では、TMPに加え、医薬品業界向けの質量分析システム、特に中国ではバイオ医薬品向けが増加し、液体クロマトグラフも伸びました。

欧州では、臨床向けの質量分析システムが大きく増加しました。

米州、欧州、アジアでの事業拡大により、かつて20%程度あった中国の構成比は17%を下回る水準となり、海外事業のバランスが良くなってきております。下期からはTescan社の業績が加わり、欧州などの地域がさらに伸びることで、海外事業のバランスが一層改善することを期待しています。

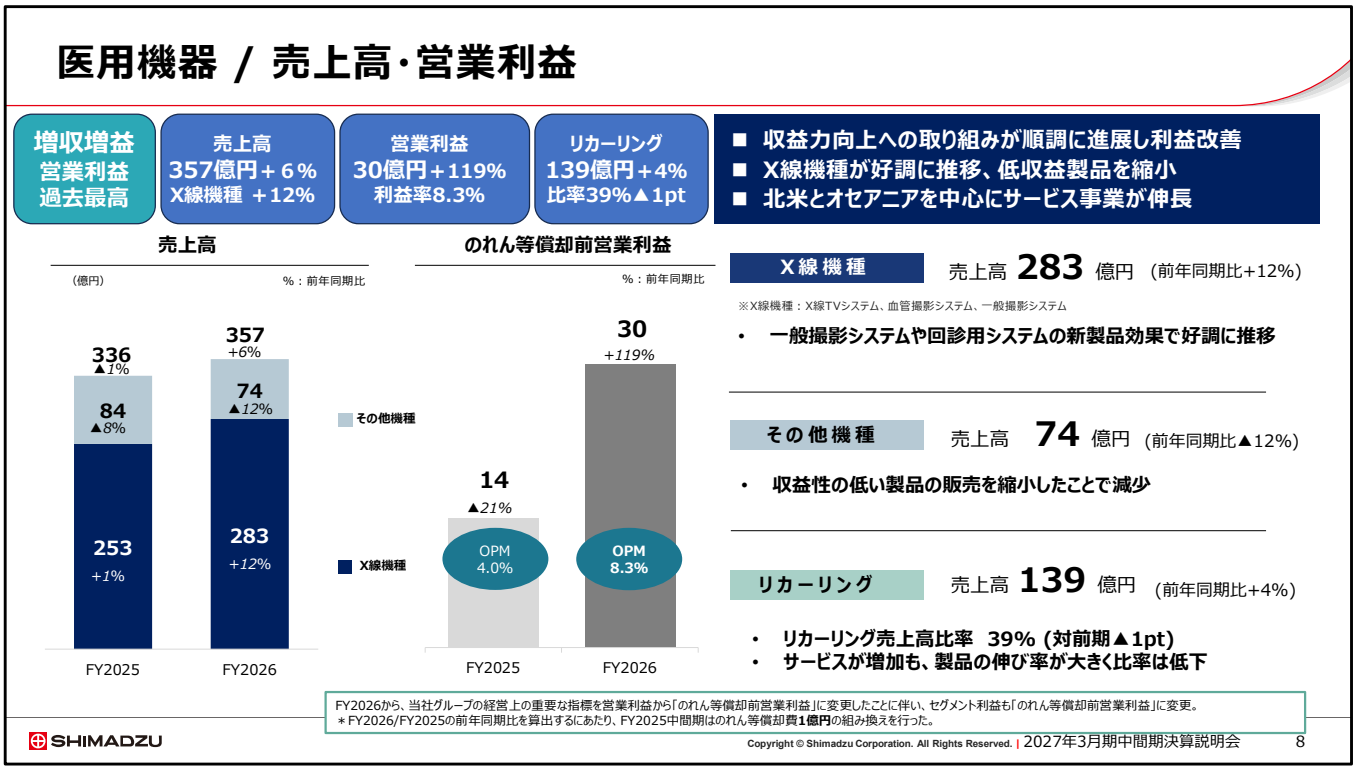


ここからはセグメント別にご説明いたします。

計測機器は増収増益となりました。売上高は5%増の1,771億円で過去最高を記録しました。特に重点機種の伸びが大きく、7%の増加となりました。

当社が注力しているリカーリング事業は、売上高が775億円と前年同期比17%増加し、売上高比率は4ポイント上昇して44%となりました。

新製品とリカーリングの増加により、のれん等償却前営業利益は2%増の246億円となりました。第1四半期は中東情勢の影響によりインドが弱含み、また、日本も下振れ、中国の動きも鈍かったことから、営業利益率は9.6%と厳しい状況でした。しかし第2四半期には営業利益率を17.3%まで戻し、上半期では13.9%まで回復しました。

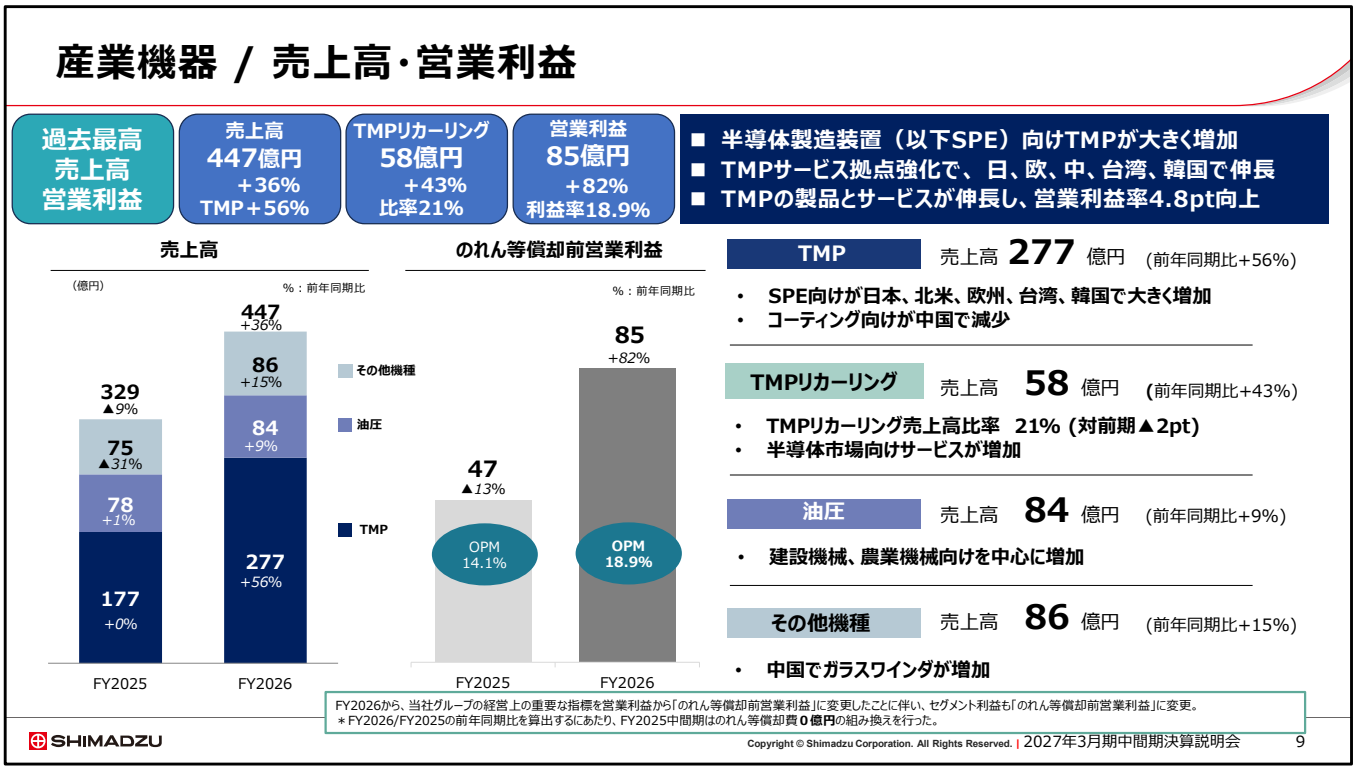


医用機器は増収増益となり、営業利益は過去最高となりました。

売上高は過去最高には届かなかったものの、6%増の357億円となりました。X線機種以外では収益性の低い製品の販売を縮小しており、前年同期比12%の減少となりましたが、注力しているX線機種は会社想定を上回る成長を見せて12%増加し、全体の成長につながりました。

営業利益は119%増の30億円と過去最高となり、営業利益率は8.3%となりました。

リカーリング事業の売上高は、前年同期比4%増の139億円となりました。X線機種の製品が伸びたため、リカーリング売上高比率は前年を若干下回りましたが、特に北米やオセアニアで伸長しました。

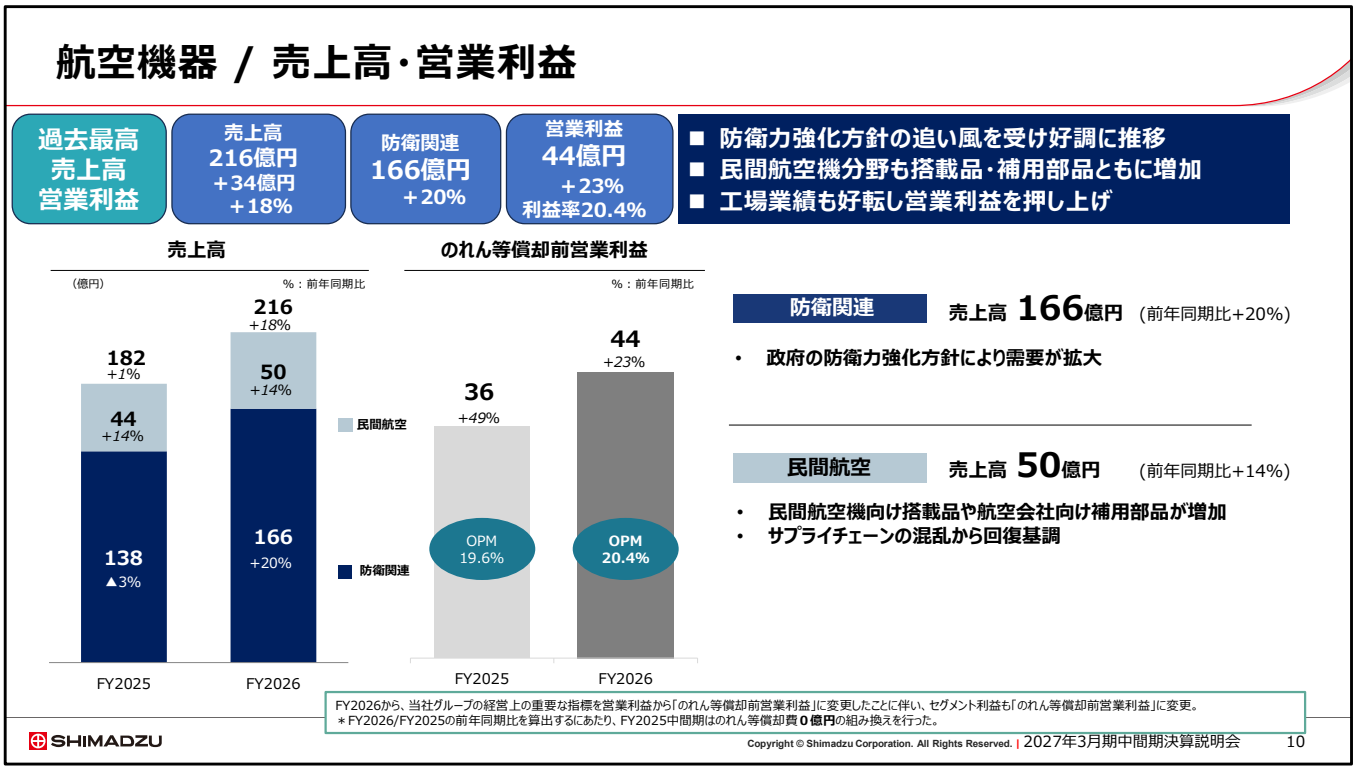


産業機器は、売上高・営業利益ともに過去最高となりました。

半導体製造装置向けのターボ分子ポンプ（TMP）が大きく伸びました。受注は前年度の倍ほどとなっており、売上高は56%増の277億円と過去最高です。また、油圧機器も建設機械・農業機械向けを中心に増加し、産業機器全体の売上高は36%増の447億円となりました。

TMPのハードウェアに加え、TMPのリカーリングも成長を大きく牽引しており、前年同期比43%増と、収益面を大きく押し上げています。リカーリング比率は21%となりました。

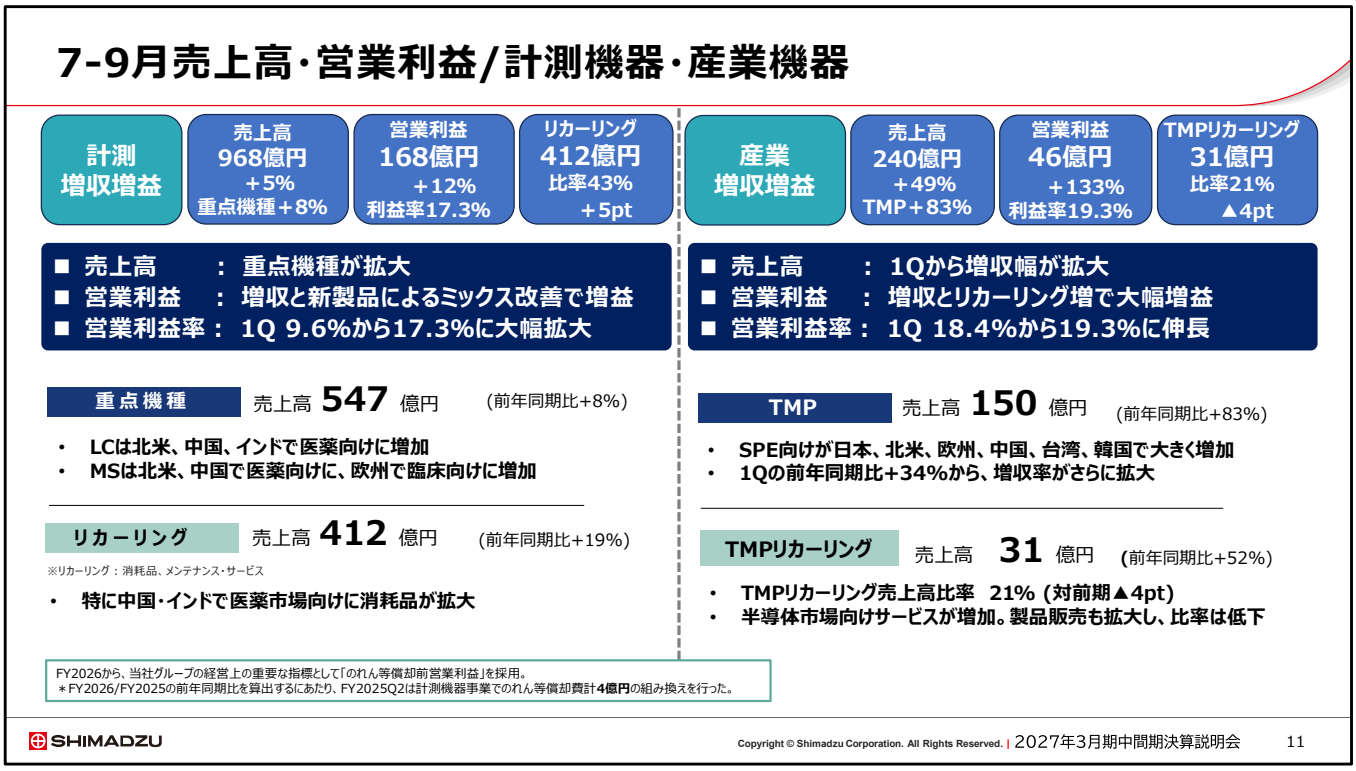
TMPの主なお客様は半導体製造装置メーカーですが、その装置が納入された先の半導体工場の近くにサービス拠点を設け、台湾、韓国、米国など各地で24時間365日、装置が安定して稼働するようサービスサポートを行っています。現在このサービス体制を拡充しており、事業を支えるうえで非常に重要なリカーリング事業が大きく成長していることを大変喜ばしく思っております。



航空機器は、売上高・営業利益ともに過去最高となりました。

売上高は前年同期比34億円、18%増の216億円となりました。特に防衛関連が日本政府の防衛力強化方針を受けて大きく伸び、20%増の166億円となりました。

営業利益も23%増の44億円と過去最高となり、営業利益率は20.4%となりました。上半期では、航空機器の営業利益率が全セグメントの中で最も高くなっております。数年前のコロナ禍では赤字すれすれの厳しい状況でしたが、現在は様相が大きく変わりました。



7-9月の売上高と営業利益について、計測機器と産業機器に絞ってご説明いたします。

計測機器は第2四半期も増収増益となり、売上高は5%増、うち重点機種は8%増となりました。営業利益は12%増の168億円、営業利益率は17.3%となりました。重点機種である液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフで新製品を投入しており、新製品の売上高比率が上がってきたことで、営業利益率が大きく改善しました。リカーリングの増加も収益性を押し上げ、第2四半期で利益率を大きく回復させることができました。

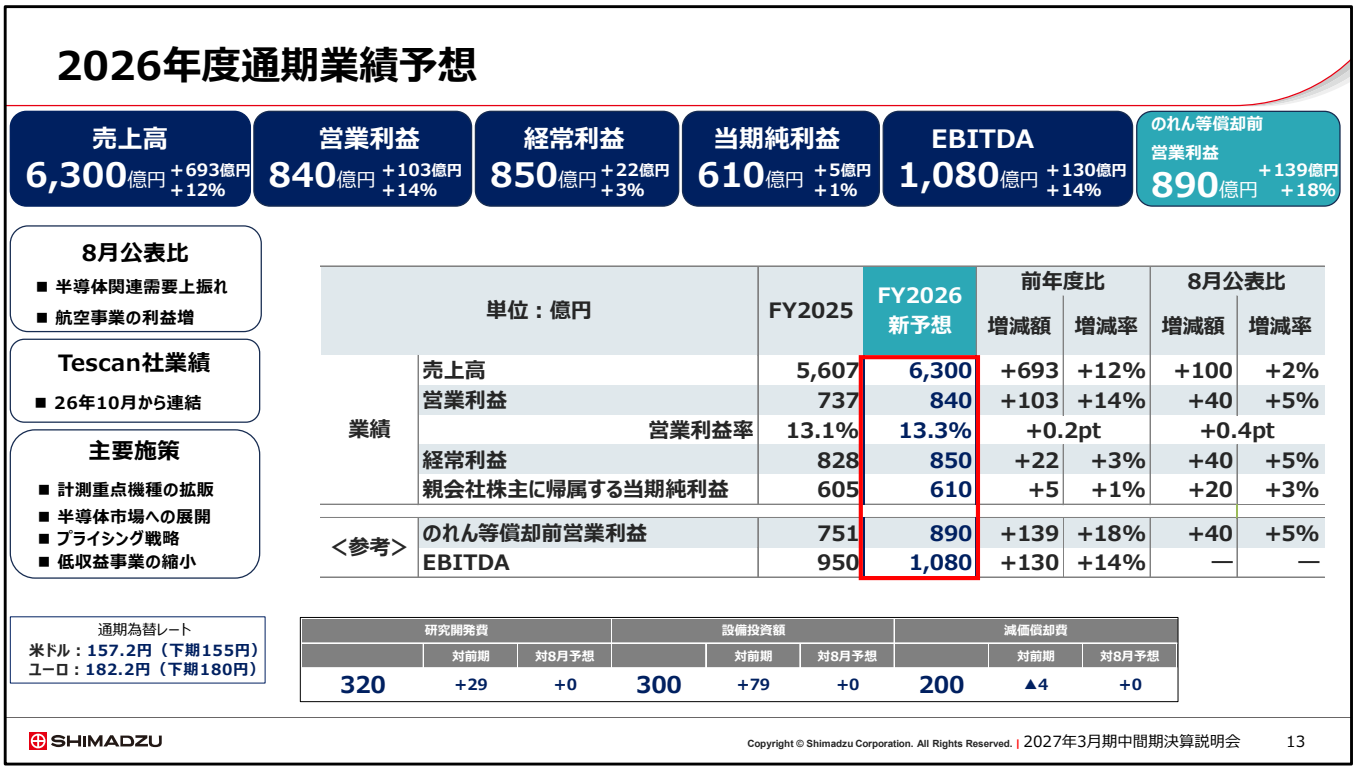
産業機器では、第2四半期にTMPの生産が進んだことにより、TMPの売上高は第1四半期の前年同期比34%増から、83%増へと大きく拡大し、セグメント全体でも大きく伸びました。加えて、TMPのリカーリングも前年同期比52%増となっています。現在の受注残の状況から、第3四半期、第4四半期もしっかり伸びるものと期待しています。一方で生産能力の増強も必要であることから、先日開示いたしましたとおり、生産設備の一部製造ラインの強化を進めております。

ガイダンス

- 2026年度通期業績予想
- 2026年度通期セグメント別業績予想
- 通期予想達成に向けて
  - 半導体関連事業拡大の取り組み
  - 計測機器/ 地域別受注実績と今期の取り組み
  - 計測機器/ リカーリング事業拡大による収益性の改善
  - 収益力向上への進捗

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

続いて、ガイダンスとして、2026年度の通期業績予想と、その達成に向けた取り組みをご説明いたします。



単位：億円		FY2025	FY2026 新予想	前年度比 増減額	前年度比 増減率	8月公表比 増減額	8月公表比 増減率
業績	売上高	5,607	6,300	+693	+12%	+100	+2%
	営業利益	737	840	+103	+14%	+40	+5%
	営業利益率	13.1%	13.3%	+0.2pt		+0.4pt	
	経常利益	828	850	+22	+3%	+40	+5%
	親会社株主に帰属する当期純利益	605	610	+5	+1%	+20	+3%
<参考>	のれん等償却前営業利益	751	890	+139	+18%	+40	+5%
	EBITDA	950	1,080	+130	+14%	—	—

研究開発費			設備投資額			減価償却費		
	対前期	対8月予想		対前期	対8月予想		対前期	対8月予想
320	+29	+0	300	+79	+0	200	▲4	+0

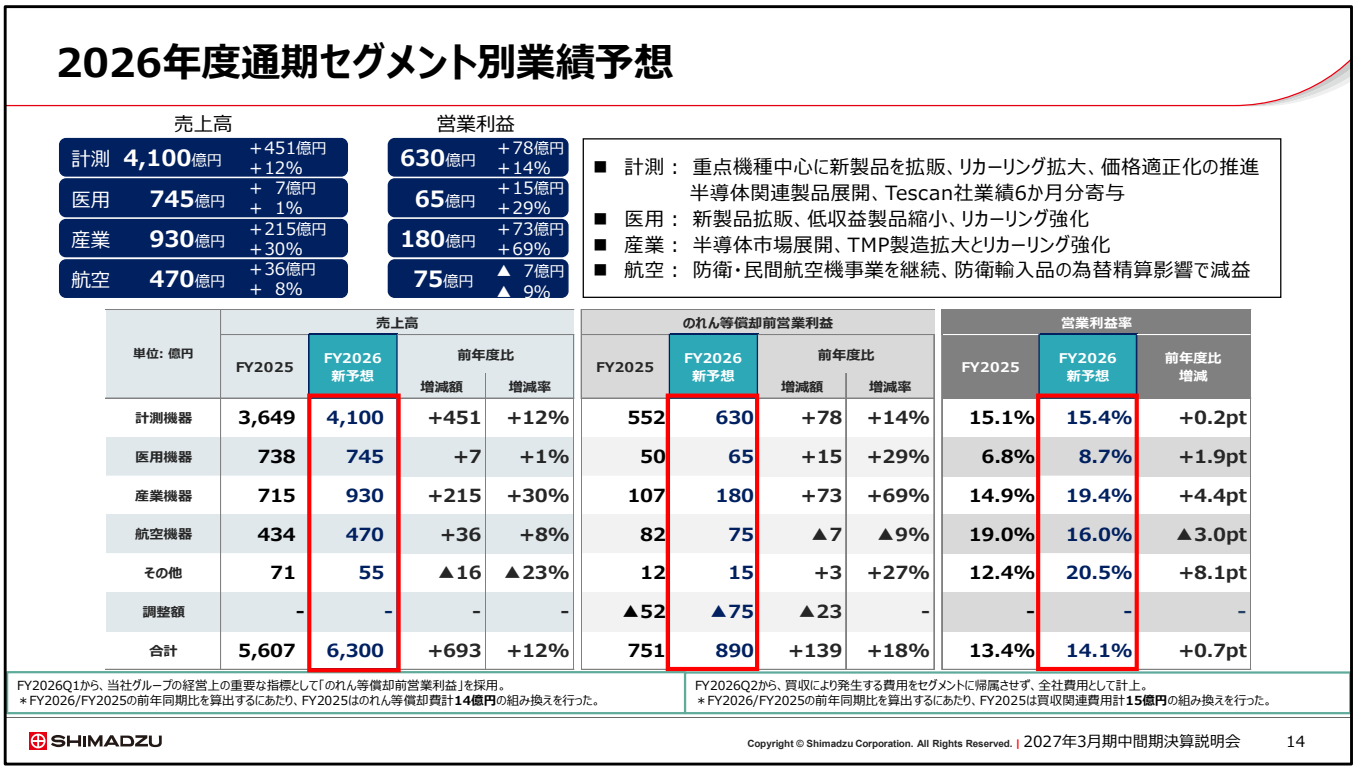
2026年度の通期業績予想です。

売上高は、先ほど申し上げたとおり6,300億円とし、前年度比693億円、12%の増収を計画しています。営業利益は840億円で、103億円、14%の増益です。経常利益は850億円、親会社株主に帰属する当期純利益は610億円、EBITDAは1,080億円を計画しています。のれん等償却前営業利益は、Tescan社の買収に伴うのれん等の償却が発生するため、営業利益より50億円ほど高い890億円を計画しています。

8月公表値からは、売上高で100億円、営業利益で40億円上方修正しました。半導体関連の需要が想定を大きく上回っており、現在の受注残から第3四半期、第4四半期もしっかり事業を維持できると見込んでいること、また航空機器の利益が、前年には届かないものの、当初想定していた為替等のマイナス影響が想定ほど大きくなく、上振れていることによるものです。

Tescan社の業績は10月から連結を開始しており、8月公表時と変わらず、下期で売上高165億円、のれん償却前営業利益28億円を計画しています。

主要施策としては、計測機器で重点機種を拡販して新製品比率を高めるとともに、プライシング戦略を進めて利益率を向上させます。また、半導体市場への展開を進め、医用機器の低収益事業は縮小してまいります。



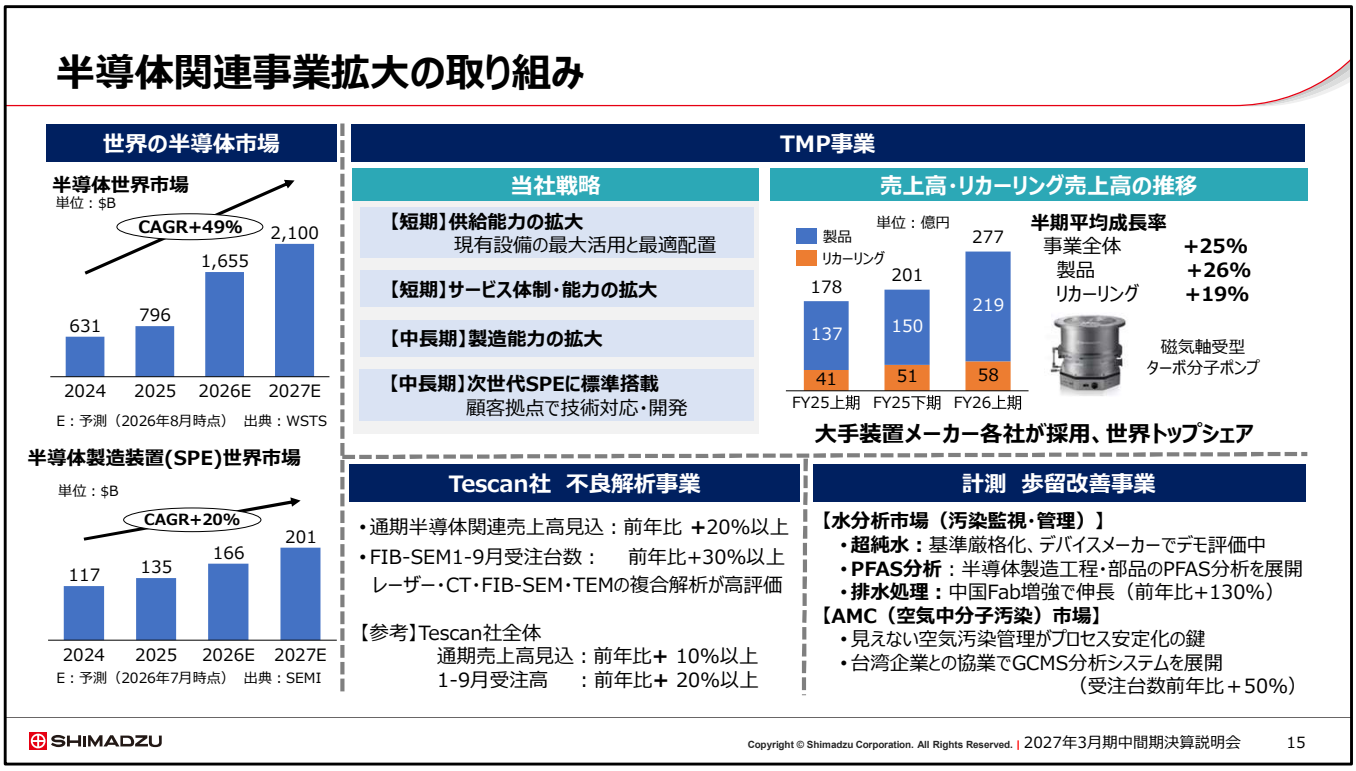
セグメント別の通期予想です。

計測機器は、売上高4,100億円、営業利益630億円と、それぞれ451億円・12%、78億円・14%の増加を計画しています。重点機種を中心に新製品を拡販し、リカーリングの拡大とプライシング戦略を推進します。さらに半導体市場に向けて、Tescan社の製品だけでなく当社の製品も展開し、売上高を拡大してまいります。

医用機器は、低収益製品の縮小により、売上高は7億円・1%増の745億円と小幅な伸びにとどまりますが、営業利益は15億円・29%増の65億円を計画しています。新製品の拡販と低収益製品の縮小を進めます。

産業機器は、ターボ分子ポンプが牽引し、売上高は215億円・30%増の930億円、営業利益は73億円・69%増の180億円を計画しています。製品とサービスを合わせたリカーリングを拡大し、しっかりと利益を確保してまいります。

航空機器は、売上高は36億円・8%増の470億円を計画しています。営業利益は75億円で、防衛輸入品の為替精算の影響により、前年をやや下回る見込みです。



半導体関連事業拡大の取り組みについてご説明いたします。

当社の半導体関連事業で最も大きいのはターボ分子ポンプ（TMP）事業です。受注残を含めて非常に強い状況にあり、短期的にはまず供給能力を拡大し、業績に確実に寄与させることが重要です。上期の売上高277億円から、下期はさらに上積みを計画しています。あわせて、サービス員の増強やサービスセンターの増設によりグローバルなサービス体制を強化し、世界中で稼働する多数のTMPのメンテナンスやオーバーホールを着実に取り込んでまいります。中長期的には、生産能力のさらなる拡大を検討するとともに、次世代の半導体製造装置向けTMPをお客様と共同で開発します。

下期から連結するTescan社は、半導体の不良解析に強みを持ち、主力のFIB-SEMの1-9月受注台数は前年比30%以上増加しました。レーザー加工とSEM・TEMを組み合わせた複合解析が高く評価されており、半導体関連売上高は通期で前年比20%以上の伸びを見込んでいます。

計測機器では、超純水の評価基準厳格化に対応した装置群の展開を開始し、排水処理向けは売上高が前年比130%ほど伸びています。PFAS分析も展開するほか、AMC（空気中分子汚染）では台湾企業との協業によりGCMS分析システムを展開し、受注台数は前年比50%増となっています。

計測機器 / 地域別受注実績と今期の取り組み①

■ 受注が好調な半導体、医薬、バイオ医薬市場で、最新ニーズに適した重点機種・新製品を提案
■ 特に、日本、東南アジア、韓国、台湾、中国で、Tescan製品も含めたトータルソリューション提案を強化

地域	2Q受注高 前年同期比（為替除く）	今期の取り組み
連結	+6-9%	
日本	+3-7% （重点機種＋23-27%） 半導体・医薬市場向け などが好調	マザー地域として、お客様の分析計測ワークフロー全体へのソリューション提案を展開 □ 半導体材料関連（化学）で、各種分析装置ニーズにトータルソリューション展開 □ 医薬市場（自動化・効率化需要で投資増）で重点機種・新製品を提案 □ 官公庁向け（補正予算）案件へ提案強化
その他のアジア （インド除く）	+13-17% （重点機種 +13-17%） 東南アジア +13-17% 韓国 +10-14% 台湾 +45%超	半導体・電池・医薬品関連ビジネスの重点地域として、トータルソリューションを提案 □ 東南アジアの医薬市場（自国生産・規制対応強化などで好調）で、重点機種中心に新製品を展開 □ 韓国の半導体関連市場で、超純水、排水、Tescan製品などで取り組み強化 □ 台湾の半導体関連市場で、超純水、排水、AMC、Tescan製品などで取り組み強化
中国	+20-24% （重点機種 +23-27%） LC・MSはバイオ医薬 向けが大幅増	動きのある市場に集中し、顧客ニーズに合わせたソリューションを提案 □ バイオ医薬市場（投資が活況）向けに、LC・MSの販売を強化 □ 大規模設備更新プロジェクト（入札活発化）でアカデミア・税関・検査所の需要開拓に注力 □ 電機電子市場（中国版RoHS規制関連）で、売上高増加を見込む

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器の地域別受注実績と今期の取り組みについてご説明いたします。
計測機器で通期予想の売上高4,100億円を達成するためには、Tescan社分を除いても大きく伸ばす必要があります。上半期の受注残が相当程度あるため、これをどれだけ売上につなげられるかが最大のポイントです。加えて、10-12月の3か月間でどれだけ受注を獲得し、1-3月に売り上げるかが計画達成の鍵となります。
受注が好調な半導体、医薬、バイオ医薬品市場で、最新のニーズに対応した重点機種の新製品を展開します。また、日本、東南アジア、韓国、台湾、中国では半導体関連が大きく動いていることから、Tescan社製品も含めた半導体分野でのトータルソリューション提案を強化し、10-12月の受注を積み上げてまいります。
地域別では、日本は半導体、医薬品、官公庁・大学といった市場で受注を伸ばしていきます。韓国、台湾、東南アジアでは、半導体、電池、医薬品など成長市場での事業展開を進めます。中国では、バイオ医薬品市場、ようやく動き出した政府の大規模設備更新プロジェクト、さらに中国版RoHS規制への対応が進む電機電子市場で受注を伸ばし、売上につなげてまいります。

計測機器 / 地域別受注実績と今期の取り組み②

■ 欧州は、臨床検査機器大手と協働して、臨床市場を深耕
■ 北米・インドでは、医薬・半導体市場に向け、重点機種や新製品による業績拡大に注力

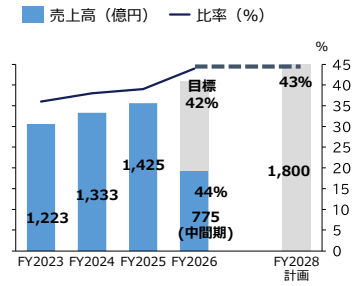
地域	2Q受注高 前年同期比（為替除く）	今期の取り組み
連結	+6-9%	
欧州	+3-7% 重点機種　+6-9% 臨床市場で好調	**臨床市場深耕のフロントランナーとして、ビジネスモデル構築をすすめる** □ **臨床市場向けに**ソリューションをトータルで提案し、病院・検査機関の需要を獲得 臨床検査機器大手を共同してLCMS専用機を展開 □ **医薬・食品市場**で、重点機種新製品を中心としたソリューションを強化
北米	▲0-3% LCは前年比プラス 医薬向け中心	**R&Dセンターを核に大手製薬・臨床検査会社との関係構築と新製品・MVS展開** □ **医薬市場**でLC新製品を展開。**AI創薬や自動化**向けにトータルソリューション展開 □ **臨床市場**で高評価の多検体処理LCMSシステムと消耗品を展開 □ **環境関連**（LCMS新製品でPFAS検査、イオンクロマトグラフ新製品で水質検査）を展開 □ **半導体関連**（旺盛な需要を背景に、高成長が継続中）で、超純水、排水検査装置を拡販 同時に、Tescan製品を活かして不良解析市場にソリューション展開
インド	▲4-6% MS・GCは前年比プラス 医薬向けに拡大	**重点強化地域として、販売・製造・開発能力を強化** □ **医薬市場**（原薬/中間体・ジェネリック医薬の設備投資増強が継続、中東影響から需要回復基調）で、下期は品質管理部門中心に一体型LC新製品とトータルソリューション展開に注力 □ **自動車・半導体・電子部品・電池材料**の組成・構造・強度・劣化評価ニーズにソリューション展開

SHIMADZU
Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

次に、欧州、北米、インドです。
欧州では臨床市場が好調で、自動前処理装置、液体クロマトグラフ、試薬が伸びています。欧州の試薬メーカーとの提携によるトータルソリューションで、病院や検査機関の需要を取り込んでいます。また、臨床検査機器大手と協働し、同社の検査機器に当社装置を組み込んだシステムを病院で評価いただいており、評価完了後はグローバルに展開する予定です。
北米は、第2四半期の受注高が前年同期比0～3%減となりました。前年に大きく伸びた臨床向けの多検体処理LCMSシステムの受注が一服したためですが、9月頃から受注が再開しています。下期は医薬品市場での液体クロマトグラフ、臨床市場向けLCMSシステム、環境・半導体関連を強化します。R&Dセンターを核に大手製薬企業や臨床検査会社との関係を構築し、マルチベンダーサービスも含めて長期的な事業基盤を確立してまいります。
インドでは、上半期は中東情勢とルピー安の影響でお客様の投資が後ろ倒しになりましたが、8月後半から医薬品、自動車、電池市場で投資が動き出しました。当社が液体クロマトグラフで40%以上のシェアを持つ医薬品市場でさらに伸ばすとともに、自動車、半導体、電子部品などの分野にTescan社製品も含めて展開してまいります。

計測機器 / リカーリング事業拡大による収益性の改善

■ 市場ニーズに適した消耗品・試薬・培地・保守サービスを提案し、リカーリング事業を拡大
■ プライシング戦略を通じてサービスと保守部品の価格適正化を推進
■ リカーリング売上高比率の中計目標値43%を上回る成長をターゲットに活動



計測リカーリング売上高・比率推移
（Tescan除く）



全自動前処理 LCMS分析システム＋消耗品

FY2026中間期実績

欧州　：臨床市場での業績拡大（前年比**35－39%増**）を背景に、消耗品・サービスが伸長

東南アジア　：部品　・売上高前年比**23－27%増**。サービス部品パッケージ製品の拡販が奏功
：サービス　・売上高前年比**15－19%増**。リカーリング事業売上高は継続的に拡大
：消耗品　・ワイエムシイ製品の追加等によるラインナップ拡充で、売上高**6-9%増**



分析用バイアル

中国　：医薬市場向け保守契約（前年比**14-17%増**）、部品（同**60%以上増**）が大幅に伸長
：自社カラムの売上高も前年比**16-19%増**と堅調に推移

今後の戦略

装置・消耗品・サービスの一体提供で事業成長を加速

サービス　・**MVS事業を基盤**としたリモートサービスにより顧客価値を最大化
・装置保守に分析・データ解析支援を加えた有償プランをグローバル展開



GC用ガス精製フィルタ

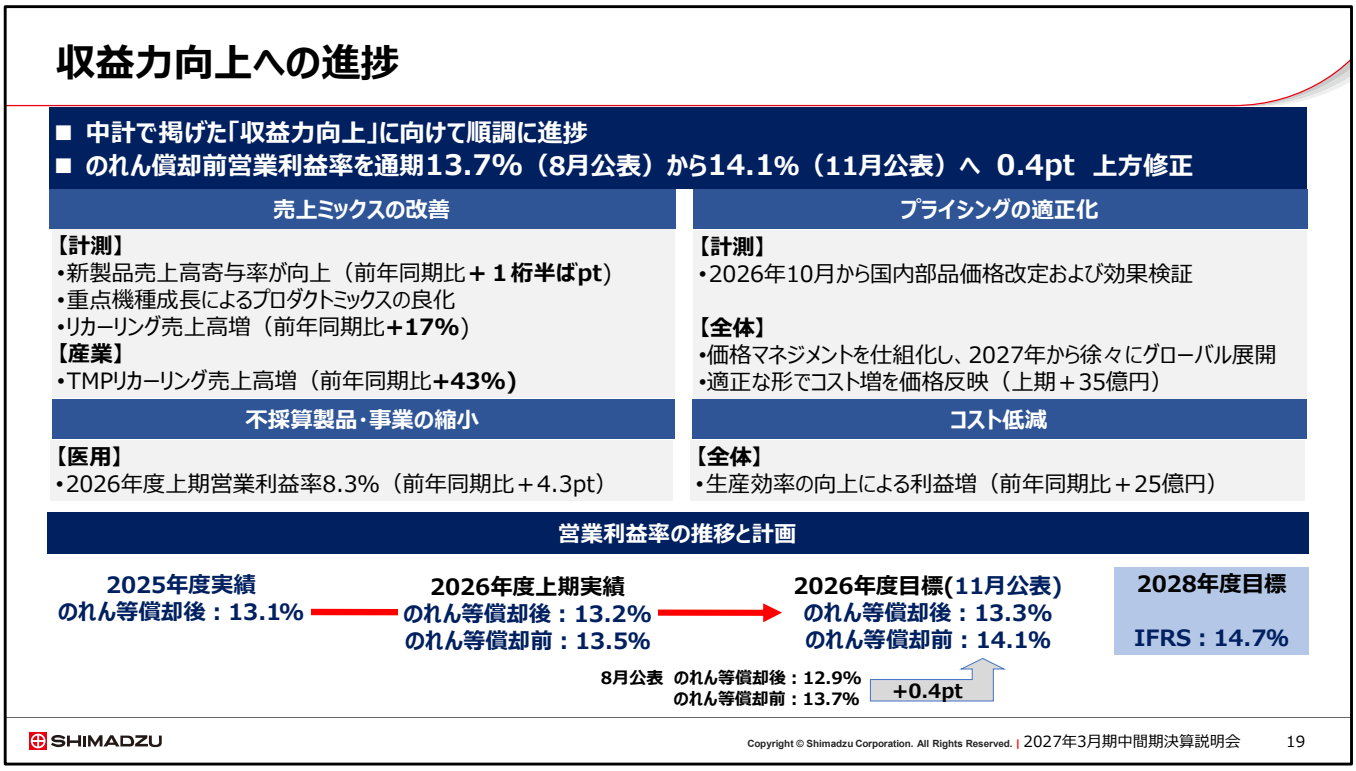
消耗品　：**試薬・培地の用途拡大と地産地消をグローバルに推進**
①臨床市場：Abbott社との連携によりLCMS試薬を販売
②医薬市場：ワイエムシイ社製消耗品の販売を中国・ASEANで拡大
③バイオ医薬等の成長市場でカラム・培地・消耗品の製品群を強化
④イオンクロマトグラフ・GC新製品と連動した消耗品ラインナップを拡充



分析用カラム

SHIMADZU
Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

次に、中間期で大きく伸びたリカーリング事業についてです。
欧州では、臨床市場を中心に消耗品やサービスが伸びました。東南アジアでは、部品、サービス、消耗品がそれぞれ伸長しました。消耗品では、当社が独占販売しているワイエムシイ社のカラムなどが売上高の増加に寄与しています。
中国でも、医薬品市場向けの保守契約が伸びていることに加え、培地や当社グループで製造している自社カラムも伸びています。中国では製品販売が厳しい面もありましたが、リカーリングで業績をしっかりと確保することができました。
今後も同様の方向で展開してまいります。サービスでは、マルチベンダーサービス（MVS）事業を強化します。消耗品では、臨床向けの試薬、医薬市場向けのカラム関連、バイオ医薬品市場向けの培地などを強化します。培地については、子会社であるSDCの製品が中国で大きな顧客基盤を有しており、期待しています。
中期経営計画で掲げている計測機器のリカーリング売上高の目標は1,800億円ですが、今年度大きく伸びていることから、目標の見直しも検討したいと考えています。



収益力向上への進捗です。中期経営計画では、収益力向上に向けて4つの施策を掲げており、それぞれの進捗をお示ししています。

1つ目の売上ミックスの改善では、計測機器で新製品の売上高寄与率が前年同期比で1桁半ばポイント上昇しています。加えて、重点機種やリカーリングの増加により、ミックスが改善してきています。

2つ目のプライシングの適正化では、計測機器でこの10月から国内の部品価格などを改定しており、今後順次効果が表れてまいります。計測機器に限らず全社で価格マネジメントを強化しており、ターボ分子ポンプや油圧機器を含め、既にコスト増を適正に価格へ反映しております。

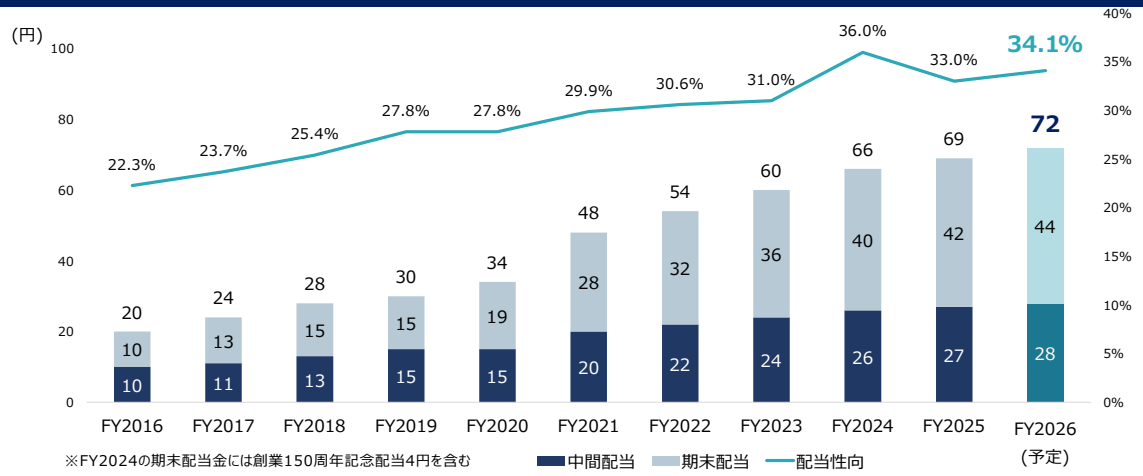
3つ目の低採算製品・事業の縮小は、医用機器で進めており、利益率が大きく向上しました。

4つ目のコスト低減では、生産効率の向上により25億円ほどの利益改善効果を得ています。

8月公表時点で、2026年度通期ののれん等償却後の営業利益率を12.9%と申し上げましたが、これら4つの施策に取り組むことで、今回13.3%に引き上げる計画です。のれん等償却前の営業利益率では14.1%となります。中期経営計画の目標は2028年度にIFRS基準で営業利益率14.7%ですので、0.6ポイントほどを、残りの2年ほどで引き上げていく計画です。

株主還元

■ 配当金　：中間配当　5月公表比･前年比1円増配の28円
　　年間配当　5月公表比２円･前年比3円増配
　　13期連続増配となる1株当たり72円（中間28円、期末44円）を予定
■ 配当性向：34.1%に向上を見込む



Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

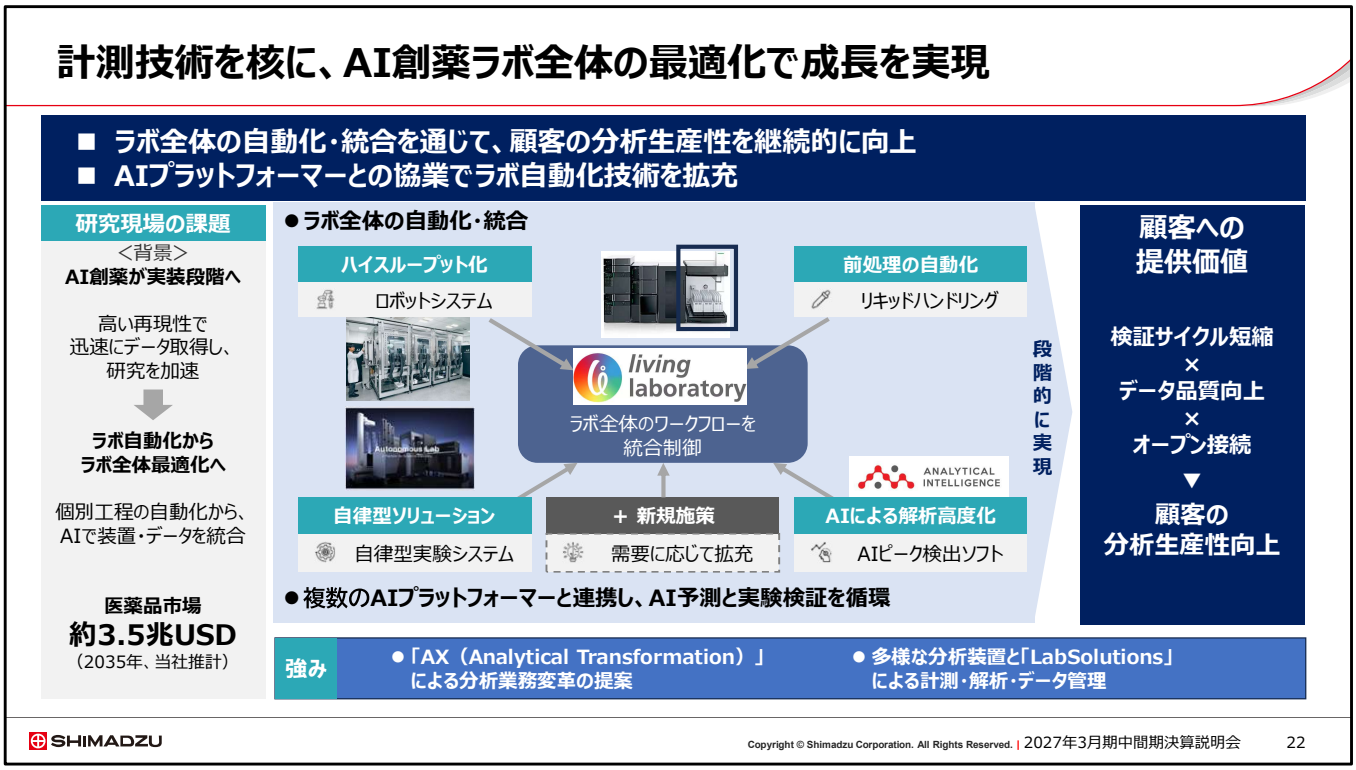
株主還元です。

先ほど申し上げましたとおり、年間配当は前年度から3円増配の1株当たり72円とし、13期連続の増配を予定しております。配当性向は34.1%となる見込みです。

中長期トピックス ■ AI創薬ラボの全体最適化による成長

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

最後に、中長期のトピックスとして、AI創薬ラボに関する事業機会について少しお話しいたします。



製薬分野ではAI創薬が、またマテリアル分野でもAIを活用した新材料の開発が進んでいきます。その際に必要となるのが、再現性良く、高い精度で、しかも素早くデータを出すことです。AIが提示するさまざまな候補物質の中からどれが良いかを見極めるには、分析結果を再びAIに学習させて検討する、というサイクルを繰り返すことになります。そのため、分析を速く行ってデータを反映することに加え、データが不正確であれば正しい結果にならないことから、精度の高いデータを速くフィードバックすることが非常に重要になります。

当社にとって、ここには非常に大きな事業機会があると考え、自動化を含め、さまざまな取り組みを進めているところです。

以上で、私からのご説明を終わらせていただきます。ご清聴いただき、誠にありがとうございました。



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、
経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素に
より、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：㈱島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

セグメント別損益（4-9月）

各セグメントの営業利益は、継続的な収益力を示す指標として「のれん等償却前営業利益」での開示に変更
- ■計測：増収増益　売上高 過去最高
- ■医用：増収増益　営業利益 過去最高。利益率も改善
- ■産業：増収増益　売上高・営業利益・営業利益率 過去最高
- ■航空：増収増益　売上高・営業利益 過去最高

単位 億円	売上高				のれん等償却前営業利益				営業利益率		
	FY2025 中間期	FY2026 中間期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	FY2025 中間期	FY2026 中間期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	FY2025 中間期	FY2026 中間期	前年同期比 増減
計測機器	1,681	1,771	+90	+5%	240	246	+5	+2%	14.3%	13.9%	▲0.4pt
医用機器	336	357	+20	+6%	14	30	+16	+119%	4.0%	8.3%	+4.3pt
産業機器	329	447	+118	+36%	47	85	+38	+82%	14.1%	18.9%	+4.8pt
航空機器	182	216	+34	+18%	36	44	+8	+23%	19.6%	20.4%	+0.8pt
その他	35	29	▲5	▲15%	5	5	+0	+9%	9.9%	11.6%	+1.7pt
調整額	-	-	-	-	▲18	▲28	▲10	-	-	-	-
合計	2,563	2,820	+256	+10%	323	381	+58	+18%	12.6%	13.5%	+0.9pt

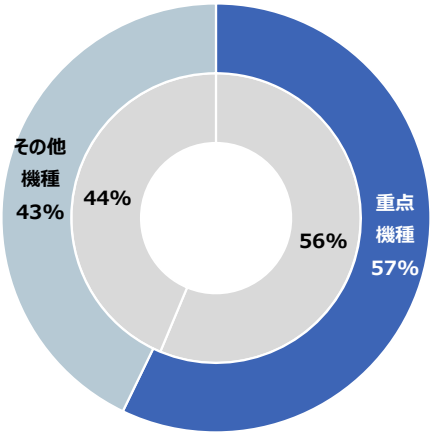
FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標として「のれん等償却前営業利益」を採用。
＊FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025中間期はのれん等償却費計**7億円**の組み換えを行った。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器 / 各種売上高構成比率（4-9月）

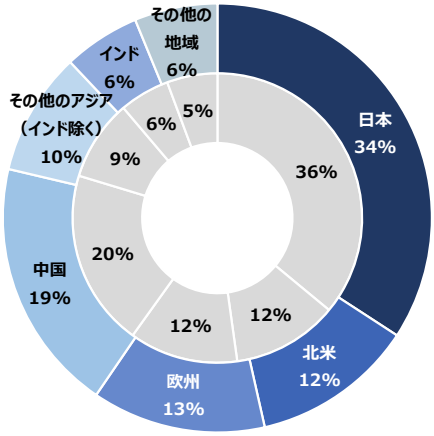
機種別

外側：FY2026実績　内側：FY2025実績



地域別

外側：FY2026実績　内側：FY2025実績

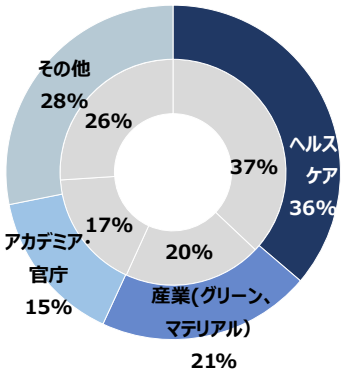


Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器 / 領域別売上高比率（4-9月）

市場別売上高構成比

外側：FY2026実績　内側：FY2025実績



市場と主な業界	構成比 FY2025	構成比 FY2026	売上高 前年同期比	概況
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析	37%	36%	+3%	・医薬は中東影響を受けたインドで減少も日本・北米・中国で増加 ・臨床（医療機関）は特に欧州で増加
産業（グリーン、マテリアル） ●化学・素材 ●電機 ●自動車	20%	21%	+10%	・北米で環境関連が微減 ・半導体関連(主に材料）が好調
アカデミア・官公庁	17%	15%	▲8%	・低迷していた北米は回復傾向 ・日本は例年より遅れ気味、下期に動く見込み ・東南アジアでは大口案件もあり好調に推移 ・中国は前年の大口案件からの反動減

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器 / 地域別売上高（4-9月）

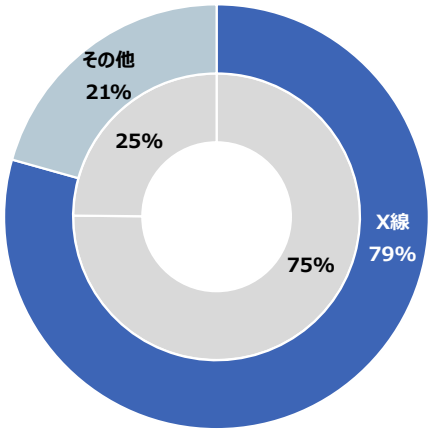
単位 億円	FY2025	FY2026	前年同期比		概況（中間期）
			増減額	増減率	
日本	605	606	+1	+0%	・自動化や効率化の需要と半導体材料需要をとらえて試験機などが増加 ・中東影響と子会社ビジネスの反動減などから微増にとどまった
海外	1,077	1,165	+88	+8%	・海外売上高比率は64.0%から65.8%へ増加
北米	199	217	+18	+9%	・医薬や官公庁・大学向けに液体クロマトグラフや質量分析システムが増加
欧州	204	232	+28	+14%	・臨床検査会社向けや官公庁・大学向けに質量分析システムが増加
中国	333	338	+6	+2%	・官公庁・大学向けは前年の好調の反動で減少 ・医薬向けに液体クロマトグラフや質量分析システムなどが増加
その他のアジア（インド除く）	151	165	+13	+9%	・東南アジアで医薬、食品、官公庁・大学向けに液体クロマトグラフや分光分析装置が増加
インド	95	102	+7	+8%	・中東影響を受けたものの、医薬、食品向けで液体クロマトグラフが増加

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

医用機器 / 各種売上高構成比率（4-9月）

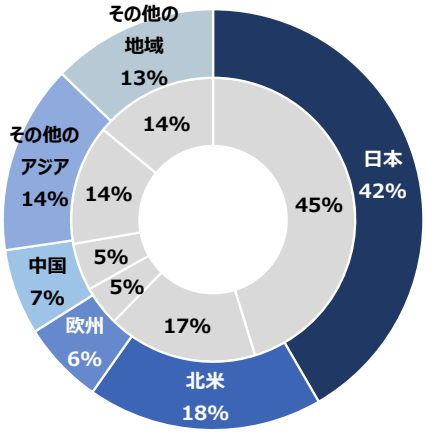
機種別

外側：FY2026実績　内側：FY2025実績



地域別

外側：FY2026実績　内側：FY2025実績



Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

医用機器 / 地域別売上高（4-9月）

単位 億円	FY2025	FY2026	前年同期比		概況（中間期）
			増減額	増減率	
日本	152	149	▲4	▲2%	・一般撮影システムを中心にX線機種が増加 ・収益性の低い製品の販売を縮小したことで全体では減少
海外	184	208	+24	+13%	・海外売上高比率は、58.4%と前年同期比3.6pt増加
北米	57	65	+7	+12%	・一般撮影システムや回診用システムが新製品効果で増加 ・サービス事業が業績を押し上げ
欧州	15	23	+7	+48%	・血管撮影システムや一般撮影システムが新製品効果で増加
中国	18	24	+5	+30%	・政府の設備更新政策により、一般撮影システムやＸ線テレビシステムが増加
その他のアジア	46	52	+6	+13%	・前年の大口案件の反動減があったものの、血管撮影システムが増加 ・サービス事業が業績を押し上げ

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

連結業績（7-9月）

単位：億円		第2四半期(7月-9月)		前年同期比	
		FY2025	FY2026	増減額	増減率
業績	売上高	1,380	1,514	+134	+10%
	営業利益	194	231	+37	+19%
	営業利益率	14.1%	15.3%	+1.2pt	
	経常利益	200	202	+2	+1%
	親会社株主に帰属する当期純利益	157	149	▲8	▲5%
<参考>	のれん等償却前営業利益	198	235	+37	+19%
	研究開発費	71	71	+0	
	設備投資額	65	151	+86	
	減価償却費	49	54	+5	

		第2四半期(7月-9月)		前年同期比	
		FY2025	FY2026	増減額	増減率
為替	平均為替レート：米ドル（円）	147.53	159.30	+11.77	+8%
	ユーロ（円）	172.37	183.37	+11.00	+6%

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

セグメント別損益（7-9月）

■計測：増収増益　売上高 過去最高。付加価値訴求とリカーリング売上増で利益率が改善
■医用：減収減益　減収により減益
■産業：増収増益　売上高・営業利益・営業利益率 過去最高。増収や製造面の改善で大幅増益
■航空：増収増益　売上高・営業利益　過去最高

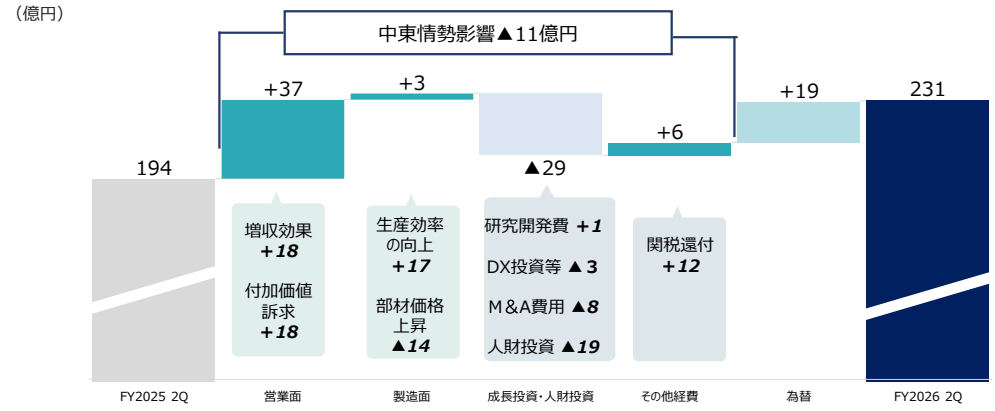
単位 億円	売上高				のれん等償却前営業利益				営業利益率		
	FY2025	FY2026	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	FY2025	FY2026	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	FY2025	FY2026	前年同期比 増減
計測機器	923	968	+44	+5%	149	168	+18	+12%	16.2%	17.3%	+1.1pt
医用機器	199	188	▲12	▲6%	21	18	▲2	▲11%	10.4%	9.9%	▲0.5pt
産業機器	161	240	+79	+49%	20	46	+26	+133%	12.4%	19.3%	+7.0pt
航空機器	83	105	+22	+27%	15	17	+1	+9%	18.2%	15.7%	▲2.5pt
その他	13	13	+0	+1%	2	3	+1	+60%	11.5%	16.8%	+5.3pt
調整額	-	-	-	-	▲10	▲18	-	-	-	-	-
合計	1,380	1,514	+134	+10%	198	235	+37	+19%	14.3%	15.5%	+1.2pt

FY2026から、当社グループの経営上の重要な指標として「のれん等償却前営業利益」を採用。
＊FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025Q2はのれん等償却費計**4億円**の組み換えを行った。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

連結 / 営業利益増減要因（7-9月）

■ 営業面	：計測と産業を中心とした増収効果と付加価値訴求で増加	+37億円
■ 製造面	：部材価格上昇も、生産効率の向上により増加	+3億円
■ 成長投資	：DX投資やM&A費用が増加	29億円
■ その他経費	：関税還付などにより利益が増加	+6億円



※記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、 表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器 / 重点機種売上高前年同期比

■ 重点機種

LC： 中近東・日本で減少したものの、北米・東南アジア・中国を中心に医薬向けに増加
MS：日本で官需遅れの影響で減少。欧州の臨床向けに大幅増、北米・インドでは医薬向けに増加
GC： 日本は中東情勢影響で、中国は民需の停滞で減少

為替影響を含む	FY2024					FY2025					FY2026	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
重点機種	+3%	▲2%	+2%	+8%	+3%	+3%	+5%	+7%	+10%	+7%	+6%	+8%
全体	+3%	▲1%	+4%	+4%	+3%	+3%	+6%	+5%	+5%	+5%	+6%	+5%

為替影響を除く	FY2024					FY2025					FY2026	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
重点機種	▲6%	▲5%	▲0%	+6%	▲1%	+9%	+6%	+5%	+6%	+6%	▲3%	+3%
全体	▲5%	▲3%	+3%	+3%	▲0%	+7%	+7%	+3%	+2%	+5%	▲1%	+0%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器 / 地域別売上高前年同期比

■ 日本：医薬向けのLCやMSが減少
■ 海外：中国では前年同期の大口案件の反動で減少。インドでは中東情勢影響から回復して大幅に増加

為替影響を含む	FY2024					FY2025					FY2026	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%	+3%	+4%	+5%	+4%	▲2%
北米	+13%	+13%	+21%	+11%	+14%	+13%	+4%	+10%	+8%	+8%	+11%	+7%
欧州	+8%	+4%	+3%	+7%	+5%	+2%	+13%	+17%	+14%	+12%	+23%	+6%
中国	▲5%	▲19%	▲10%	▲2%	▲9%	▲8%	▲1%	+1%	+5%	▲1%	+2%	+1%
その他のアジア	+4%	+3%	+1%	+13%	+5%	+13%	+5%	+0%	+14%	+8%	▲6%	+23%
インド	+20%	+25%	+4%	+24%	+17%	+16%	▲1%	▲5%	+25%	+8%	▲6%	+21%

為替影響を除く	FY2024					FY2025					FY2026	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%	+3%	+4%	+5%	+4%	▲2%
北米	▲0%	+9%	+17%	+7%	+8%	+22%	+5%	+9%	+5%	+9%	+1%	▲1%
欧州	▲4%	▲0%	+0%	+7%	+1%	+4%	+9%	+8%	+1%	+5%	+9%	+0%
中国	▲16%	▲21%	▲12%	▲4%	▲14%	▲1%	+1%	+0%	+2%	+0%	▲7%	▲6%
その他のアジア	▲7%	▲0%	▲1%	+12%	+1%	+21%	+7%	+0%	+12%	+9%	▲14%	+15%
インド	+6%	+20%	+0%	+21%	+11%	+25%	+0%	▲6%	+23%	+10%	▲15%	+12%

※インドはその他のアジアの内数

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

計測機器 / 領域別売上高前年同期比

	FY2024					FY2025					FY2026	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
ヘルスケア	+1%	▲4%	+5%	+11%	+3%	+2%	+7%	▲3%	▲3%	+1%	+4%	+2%
産業 (グリーン、 マテリアル)	+7%	+2%	+2%	+8%	+5%	▲6%	+1%	+0%	+3%	+3%	+15%	+6%
アカデミア/官庁	▲2%	▲8%	▲8%	▲7%	▲6%	+9%	▲1%	+14%	+7%	+7%	▲15%	▲0%

※為替影響を含む

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

リカーリング比率

■ 計測　：北米・中国・欧州・インドで医薬・臨床市場向けに消耗品とサービスが拡大
■ 医用　：北米他のサービス網強化によりメンテナンス・サービスが増加、中南米では部品事業が拡大
■ TMP　：台湾・韓国・中国・欧州・日本で顧客カバー率向上により大きく増加

計測	FY2024					FY2025					FY2026	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
リカーリング売上高 前期比	+0%	+4%	+10%	+7%	+6%	+10%	+6%	+5%	+7%	+7%	+7%	+13%
リカーリング比率	41%	38%	40%	35%	38%	42%	38%	41%	37%	39%	45%	43%

医用	FY2024					FY2025					FY2026	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
リカーリング売上高 前期比	▲1%	+0%	▲0%	+4%	+1%	+6%	+5%	+5%	▲1%	+3%	▲3%	+0%
リカーリング比率	41%	36%	40%	34%	37%	47%	35%	37%	35%	38%	39%	39%

TMP	FY2024					FY2025					FY2026	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
リカーリング売上高 前期比	+46%	+50%	+34%	+28%	+38%	+24%	+23%	+29%	+32%	+27%	+27%	+45%
リカーリング比率	19%	19%	22%	19%	20%	21%	25%	25%	26%	24%	21%	21%

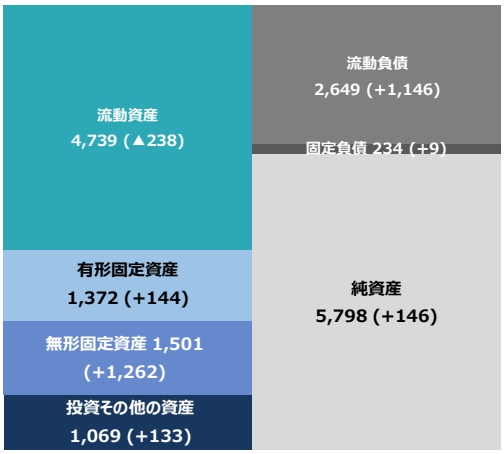
※為替影響を除く

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

連結財政状態

■ 2026年9月末総資産 8,681億円 （2026年3月末から+1,301億円）
■ Tescan社の連結により、無形固定資産・短期借入金が増加
■ 借入金の増加により自己資本比率は66.8%に （2026年3月末比▲9.8pt）

(億円)
増減は2026年3月末対比



資産

流動資産	**▲238億円**
現金及び預金	▲312億円
無形固定資産	**+1,262億円**
のれん	+1,239億円

負債・純資産

流動負債	**+1,146億円**
短期借入金	+1,100億円
純資産	**+146億円**
連結剰余金	+171億円

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.

2026年度通期セグメント別業績予想 期初からの推移

単位: 億円	売上高				のれん等償却前営業利益				営業利益率			
	FY2025	FY2026 期初予想	FY2026 8月予想	FY2026 新予想	FY2025	FY2026 期初予想	FY2026 8月予想	FY2026 新予想	FY2025	FY2026 期初予想	FY2026 8月予想	FY2026 新予想
計測機器	3,649	3,850	4,100	4,100	552	626	630	630	15.1%	16.3%	15.4%	15.4%
医用機器	738	700	715	745	50	56	60	65	6.8%	8.0%	8.4%	8.7%
産業機器	715	705	860	930	107	100	160	180	14.9%	14.2%	18.6%	19.4%
航空機器	434	440	470	470	82	50	60	75	19.0%	11.4%	12.8%	16.0%
その他	71	55	55	55	12	15	15	15	12.4%	20.5%	20.5%	20.5%
調整額	-	-	-	-	▲52	▲75	▲75	▲75	-	-	-	-
合計	5,607	5,750	6,200	6,300	751	772	850	890	13.4%	13.4%	13.7%	14.1%

FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標として「のれん等償却前営業利益」を採用。
＊FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025はのれん等償却費計**14億円**の組み換えを行った。

FY2026Q2から、買収により発生する費用をセグメントに帰属させず、全社費用として計上。
＊FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025は買収関連費用計**15億円**の組み換えを行った。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved.